

ここに使われたヨシは埼玉、群馬、栃木、茨木の4県またがる渡良瀬遊水地のヨシを使用しました。渡良瀬遊水地は、ヨシ焼きで有名ですが豊かな緑を有し、その面積は1500haと本州最大のヨシ原で多くの動植物の生息空間となっており、2012年7月にラムサール条約湿地に登録されております。

この竹を放射状に組んだヨシ張りの天井は、京都東山の高台寺建っている重要文化財である傘亭を参考にしました。傘亭は利休の意匠による秀吉公好みの小さな茶室で、北政所が秀吉公菩提を弔うために、秀吉が伏見城で舟遊びをしたときに使われた茶室を移築したものと云われています。

2の部屋の天井は、二重天井で下がり天井は漆喰仕上げで雲形に縁どられています。上部は杉板の方形天井です。二重天井の間に間接照明を設置し、天井を明るく照らしています。屋根は切妻屋根です。

3の部屋は和室でその天井は、垂木と小舞に竹を用いた野地板にヨシを張った船底天井です。照明は少し暗くして落ち着いた雰囲気になっています。屋根は片流れ屋根です。

この三つの部屋は天井も屋根も異なったつくりにし

ており、それぞれの部屋の用途に応じて異なる空間を特徴づけています。それは、そこで遊ぶ子供たちが多様な空間の面白さを体感して、何かを感じとってもらうための建築的表現の一つです。

二番目の特徴は塗り壁にあります。

各部屋の壁は土壁や漆喰の塗り壁で仕上げています。三の部屋の和室は京錆土仕上、一の部屋は土佐漆喰に京錆土（赤土）、二の部屋は土佐漆喰に稲荷山土（黄土）を混ぜた天然の色で仕上げています。これらの塗り壁は、自然素材であり、調湿能力やVOC（有機化学物質）の吸着機能があり室内の環境を人にやさしく健康的に守ってくれます。

土壁の土も漆喰の原料である石灰も全て日本国内で産出できる天然素材であり、日本古来の伝統的な壁材です。その塗り壁の色は美しくやさしいものです。それは自然素材の持つ天然の柔らかさであり、時間が経つ程微妙に変化し、何時までも飽きの来ない色合いを保ちます。それらが安らかで住み心地の良い空間をつくってくれる要素だと思っています。

ビニールクロスなどの新建材は施工した時が最も綺麗ですが、時間の経過と共にだんだん劣化して醜くなっ